



第 34 回日本福音同盟総会（6 月 3-5 日、掛川・つま恋リゾート彩の郷で開催）

「神の国」のために苦しみを共有する

弟子たちの心を強め、信仰にしっかりとどまるように勧めて、「私たちは、神の国に入るために、多くの苦しみを経なければならない」と語った。（使徒の働き 14：22）

4 月 1 日より前総主事の品川謙一先生の後を引継ぎ、総主事としての働きを始めました。総主事の責任の重さをかみしめながら、多くの方々のお祈りと励ましをいただきながら、6 か月を迎えようとしています。何よりもまず未熟な者のために祈りをもって支えてくださる JEA 加盟教団と教会、協力会員の皆さまに心から感謝申し上げます。

総主事に就任してから半年が経とうとする今、使徒 14 章 22 節が心に通います。品川前総主事が JEA の働きのキーワードとして使っていたのが「神の国マインド」という言葉です。それは主イエスが教えた「神の国」の福音に基づく表現です。冒頭の聖書箇所「神の国に入る」という表現が使われているのは、大変興味深いと思います。神の国は天から地上にやって来る（到来する）だけでなく、私たちが神の国に向かう（到達する）という両側面があることを示しています。

JEA では、神戸での第 6 回日本伝道会議（JCE6）や昨年の第 2 回青年伝道会議（NSD2）を経て、理事会をはじめ各専門委員会を中心に、様々なレベルで幅広い宣教協力の働きが進められています。このように「神の国マインド」という考え方が浸透し、広がっていることは、これまでの取り組みの大きな成果と言えるでしょう。

日本と福音派教会を取り巻く現状は、決して楽観できるようなものではないと、私たちは認

識しています。だからこそ JEA は、互いに励まし合い、各個教会、教団や教派を大切にしながらも、その壁を越えて宣教協力を進めています。そればかりか JEA は国内だけでなくアジア福音同盟（AEA）、世界福音同盟（WEA）、ローザンヌ運動とも連携しながら世界の宣教協力の一端も担っています。

さて、「神の国マインド」をもって進む道は、決して順風満帆ではなく、苦しみが伴うことを聖書ははっきりと語っています。

「多くの苦しみを経る」という言葉がここに記されています。神の国を建設するための宣教協力を進めようとするとき、どの時代もそうであったように、いつも課題や問題、動かしようのない現実と直面し、それに伴う労苦、時に痛みがあります。そのような苦しみにひるむことなく、かえって JEA 内で互いに共有しながら、進みたいと願っています。

それは苦しみを乗り越える神さまの励ましですが、私たちにはっきりと約束されているからです。困難な状況の中で神さまは私たちの心を強め、信仰にしっかりとどまることができるように助けてくださると信じています。また神さまの励ましによって JEA の働きが進むというだけでなく、JEA に所属する教会、教団、宣教団体の一つ一つが生かされ、一つとされて、キリストを証人としてこの世界に仕えるようになることを信じています。



岩上敬人
JEA 総主事
イムヌエル綜合伝道団

目次

巻頭言	1
次世代育成のために	2
九州宣教フォーラム 異端カルト 110 番	3
NSD ナイト	4
国内災害対策フォーラム	5
牧師の本棚「十字架と桜」 天皇の代替わり	6
流れのほとり	7
JEA アップデート 総務局より	8

第3回宣教研究部門担当者会議

今年も5月20日(月)、お茶の水クリスチャンセンターで教団教派、宣教団体から40名の皆様に集まっていただき、「次世代育成」をテーマに「宣教研究部門担当者会議」が開かれました。

内容はJEA宣教委員会が行ったアンケート結果の報告から始まり、日本同盟基督教団の首都圏に働きに来る青年たちが教会を超えて交わり祈りあう「DS-COM」の働き(佐野泰道師、後藤正樹師)、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の次世代育成のためのユースリーダーを育成する取り組み(生武嗣幸師)、そして同盟福音基督教会の次世代リーダー育成の試みと近隣の2～3の教会の協力による宣教ネットワーク制度(鴨下直樹師)について発表されました。どの先生の発表も先進的でチャレンジを受ける内容であり、いずれその取り組みの結果

神谷典孝 宣教委員(宣教研究部門)
JECA 横浜さが丘キリスト教会

や評価が報告されることを期待します。そしてその後には自由闊達な話し合いとなったグループディスカッションがありました。



今回は次世代育成への決定的な施策を見出した、とまではいきませんでしたが、日ごろ自分たちの団体の働きに忙しい者同士が胸襟を開いてお互いのことを語り合い、そこから教団教派を超えた交わりや協力を生み出していく場として、この会議が継続されていくことを期待します。

次世代育成の現状とこれから

JEA 総会での次世代アンケート調査報告とグループディスカッション

宣教研究部門では、第34回JEA総会(6月3～5日)一日目夜のセミナーの時間に、「次世代育成」に関するアンケート調査の報告を行いました。

これは、2018年5月以降、JEA加盟教団・教派、教会、宣教団体及びキリスト教学校等を対象に、「次世代育成」に関わる取組み状況や現状の課題を洗い出すための現状調査として実施したアンケートの報告で、29の教団・教派、232の教会、13の宣教団体、37のキリスト教学校からいただいた回答を集計・分析し、報告書として取りまとめたものです。

当該報告書は結構の分量があるため、代議員の方には事前にJEAのホームページからダウンロードして報告書を見ていただくようにし、当日はパワーポイントにて説明を行いました。

アンケートからは、各教団の「次世代育成」に対する危機意識の強さとともに、熱心な取り組みもなされていること、またその一方で次世代を育成する人材や体制が十分に整っていない現状も見えて取れます。

また、各教会の「次世代育成」の取り組みとしては、教会学校(CS)の働きが中心となっています。ところが地域に子どもはいても、教会が人のつながりや地域とのつながりがいないために、子どもが集まらない現状があること、また教会学校の在り方(学校・教授型)に対する根本的な見直しや振興策の検討の必要性をはじめ、宣教団体やキリスト教学校との連携の強化等の課題が明らかになりました。(柴田初男)

JEA総会二日目の午後、次世代育成についてグループディスカッションが行われました。参加者130名、16グループに分かれ、次世代育成に関する現場の実態について情報収集するための貴重な機会となりました。ご協力を感謝申し上げます。

内容的には、まず「ノンクリスチャンの子ども・青年の信仰が導かれる環境について」、宣教の方法論以前に、子ども・

青年一人一人に向かい合うリーダーの姿勢が大きな課題となっている様子が伺えました。

また、「クリスチャンの子ども・青年の豊かな霊性を育む環境について」は、hi-b.a.やKGKなどのパラチャーチ活動やキャンプとの連携をどのように進めていくか、宣教の環境整備が話し合いの中心となるグループが多かったようです。しかしこの点については、関係諸教会と宣教団体とが、地域ごとに顔を合わせて具体的に話し合いを重ねる必要があるとのこと。またその話し合いのポイントは、目標とする人間観や召命観、連携環境の在り方などでした。

最後に、「特別な配慮を必要とする子ども・青年が育成される環境について」、多くの教会は特別な対応はできず、神の家族として受け入れていく状況に終始していますが、実際に、行政や適切な機関とつながり、抱え込まない対応の在り方についてアドバイスを必要としています。また、親のケア、教会全体の受け入れ態勢の整備と、議論すべき点は多くありました。

また全て次世代、子どもという観点から考えてしまうのではなく、教会が置かれた地域や対象によって、それぞれ固有の課題があり、それらを正しく把握する中で、何を宣教のプライオリティにもってくるかを考え抜くことが、基本として求められていると言えます。(福井誠)



九州宣教フォーラムが開催されます！

今年の宣教フォーラムは、11月11～12日に「九州宣教フォーラム2019」として開催されることとなりました。メインスピーカーには竿代照夫先生（イムマヌエル綜合伝道団）をお迎えします。1日目に「福音のために共に戦う～教職・信徒の宣教協力」というテーマの講演があります。九州の教会が協力し、さまざまなプログラムを企画し準備してくださっています。九州における宣教協力について共に考え、意見を出し合い、福音の前進のために交わりを深める機会になることを願っています。

宣教フォーラムは第6回日本伝道会議（JCE6）2023年の東海における第7回日本伝道会議（JCE7）をつなぐ大切な役割も担っています。2日目にはJCEでのプロジェクトの経過報告と今後の方向性についても話し合われる予定です。九州の皆さま、また全国からの参加をお待ちしております。

九州宣教フォーラム 2019

キリストの愛に答えて
～宣教協力～
教職と信徒のチーム力のステップアップ

日時 11月11日(月)11:00～12日(火)13:00
会場 博多キリスト教会 **参加費** 1,000円 (部分参加の場合も同料金です)

プログラム
11日(月)
11:00～12:30 挨拶・賛美・講演「福音のために戦う～教職・信徒の宣教協力～」
講演者：竿代照夫先生（イムマヌエル綜合伝道団）
講演主題：「あなたがたは福音を一つにして聖く立ち、福音の信仰のために心一つにしてともに戦っている。どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない。」（ペリピ1:28）
12:30～13:30 昼食 ※食事の都合で持参ください。
13:30～14:30 座談会 横田法隆牧師（日本イエス・キリスト教団福岡教会）

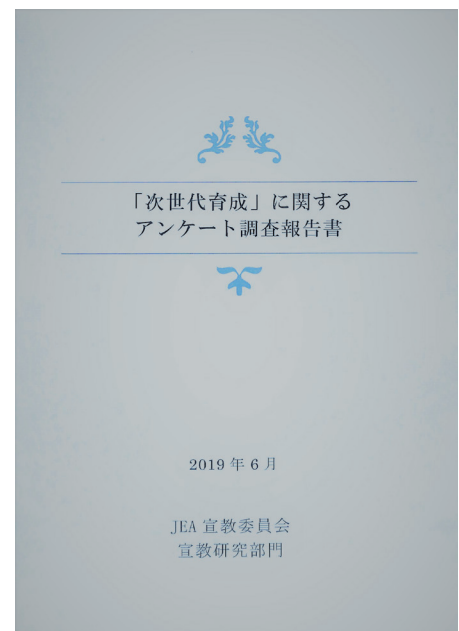
主講師：竿代照夫 氏（イムマヌエル綜合伝道団）



「次世代育成」アンケート調査報告書 利用についてのご案内

多くの加盟教団、各地域教会、各宣教団体にご協力をいただき、心から感謝申し上げます。今年6月に「次世代育成に関するアンケート調査報告書」が完成しました。91頁にわたる調査報告書となっています。今後はこの調査報告書をさらに改善しながら、第7回日本伝道会議に向けて、また今後の日本宣教とその戦略のための資料として用いていただければと願っています。またアンケート調査に関する皆さまのフィードバックもお聞かせいただきたく願っております。

アンケート調査報告書はJEAホームページ「宣教委員会」のページからダウンロードすることができます。ファイルを開くためにはパスワードが必要です。パスワードは「1765」です。ぜひ、各宣教団体でこの資料をご利用ください。ご自由に使っていただいて結構ですが、次のアンケート作成と今後の改善のために、JEA宣教委員会の働きのために支援をしていただけると感謝です。宜しくお願ひ申し上げます。



お知らせ 「異端カルト110番」との連携

2019年10月3日に「異端カルト110番」が開設されます。日本の異端問題に取り組んでおられる先生方がこのサイトの設立に協力しています。「異端カルト110番」は、異端カルトの活動の情報を発信し、信頼できる情報提供を行うメディアとして設立されました。日本において、韓国の異端カルト団体が様々な活動を行っていて、福音派教会と見分けが付きにくい団体もたくさんあります。韓国発祥の異端は日本にどんどんと入ってきています。そのような中、情報が少ないため、あるいは様々な情報が交錯し、混乱している結果として、残念ながら日本の教会が被害にあう事例も起こっています。JEA理事会でも賛同団体として協力することを決定しました。JEAとして協力しながら、その情報を活用していきたいと願っております。皆さまも「異端カルト110番」をぜひご利用ください。

日本キリスト教異端相談所 **異端カルト110番** 異端・カルト情報の決定版！

オンライン情報ニュースサイト

異端カルト110番

詳しくはWEBまで URL <https://cult110.info/>

迫りくるキリスト教異端・カルトの脅威から日本の社会と教会を守る。

異端が発信するフェイクニュースに騙されない。真実を明かすメディア

わかりやすい言葉で正確な情報を届ける

特徴 異端・カルトに関する海外のニュース、資料を日本語で読める。
どんな団体が異端決議されているか一目瞭然 国内外の情報も読みやすくお届け



運営スタッフ
代表 張清益（チャン・チョンイク）
関西学院大学文学部 聖霊神学校
日本キリスト教異端相談所所長 大韓イエス教長老会（合同）所長 ともにキリスト教教会牧師（東京都足立区）
編集長 中橋祐貴
自由学園高等学校 延世大学語学堂（韓国）
宗教法人キリスト聖協同宣教師会清瀬グレースチャペル会員 脱カルト協会会員

「NSD ナイト」を開催しました！

薦田聡毅 青年委員長
イムマヌエル綜合伝道団・堺キリスト教会

NSD II (第2回日本青年伝道会議) から生まれたイベントです

2019年7月5日(金)夜7～10時、渋谷のhi-b.a. センターにて、「NSD ナイト」を開催しました。

これは2018年11月のNSD IIの流れを汲んで行われたもので、NSD II三日目の世代別集会(中高生・学生・社会人)が行われた中、特にニーズを感じられたのが社会人グループでした。三日間全体の参加者を見ても、社会人が高い割合で参加し、活動力をもちつつ、ケアと養いと交わりのニーズをもっていることが顕著でした。中高生や学生にはJEAにも加盟しているhi-b.a.やKGK、CCCなどの、特化した宣教団体がありますが、社会人にはそれに匹敵するものはなく、JEA 青年委員会としてテコ入れを必要としている所は、まずはこのグループであろうと、NSD ナイトの企画に至りました。



当日のプログラムは主に三部構成で、コンサート、メッセージ、グループディスカッションと続きます。集会のリードの部分では、会場となったhi-b.a.の水梨郁河主事が讃美を導いて下さいました。通常の高校生との活動もある中で、会場を提供して下さいったhi-b.a.に感謝申し上げるとともに、各青年宣教団体の美しい協力関係がこれからも続けられ、構築されてゆくようにと願われます。

最初のコンサートには、ゴスペルシンガーのMigiwaさんをお迎えしました。不登校時代に教会で励まされた、自身の証しを交えながら、優しい歌声で、駆けつけてくる社会人たちを励まして下さいました。アンケートを見ると、疲れた心と体に良い癒しの時間だったと、大変好評でした。

続くメッセージは、福音自由・東京都心ミニストリー国内宣教師の下村明矢師。豊富な社会人経験をもっておられることから、彼らに寄り添うメッセージを、「キリストにある変容～Transformation in Christ～」と題して、ペリピ書2:5-11より語られました。第一に「キリストが人となられたのは、私たちが変容されるためだったこと」、第二に「人が喜ぶ誰かになるのではなく、神の喜ばれる自分自身に変容すること」、第三には「変容を遂げた我々は、キリストとともに高く上げられること」と語られ、今それぞれが与えられているポジションが人に与えられた出世のための通過点ではなく、世界全体を良いものにしてゆくために神から託されたポ



ジションととらえて励もう、と励まされました。

続いてランダムに分けられたグループで、メッセージで語られたこと、自分で教えられたことを皮切りに、自由な分かち合いの時をもちました。初めて顔を合わせる人たちが多く、まるで以前からの知り合いのように和気あいあいと進められていたのが印象的で、キリストにあって家族であることの不思議さと、恵みの素晴らしさを覚えました。会場の都合で夜10時までと区切られていたのですが、時間が足りないと感じた人が多かったようです。それくらい各グループとも良い分かち合いができたようで、また次回への期待が寄せられています。

今回は平日・都内でのプログラム、インターネットでの申込み受け付けに限ったこともあったのか、当日まで40名台の申込みでしたが、始まってみると職場から直接、当日飛び込みの参加者もあって、参加者は70名を超え、会場のキャパは大体埋まった感じになりました。また遠路名古屋から駆けつけてくださった方もあり、多くの姉妹と良いプログラムをもてたこと、また祝福の中にすべてを導いて下さった主に、感謝と栄光をお捧げします。



今後も継続的な開催を望む声が挙がっています。またNSD IIの時から、地方での開催を希望する声も届いています。これらについては、今後も検討を続けたいと願っています。背後での温かいご理解とお祈りを感謝申し上げます。尚引き続き青年の働きのために、お祈りに覚えて頂ければ幸いです。

第四回国内災害対策フォーラム開催

村上正道 援助協力委員長
JECA 湘南のぞみキリスト教会

今年の6月25日（火）に第四回国内災害対策フォーラムが行われました。今年は、初の試みとしてクラッシュジャパンとの共催で、午前中に国内災害対策フォーラムを行い、午後に首都圏広域ネットワークフォーラムが行われました。今年は例年以上に多くの方々にご参加いただき感謝でした。

今年のテーマは、災害における初動体制でした。つまり各教団の防災担当者および地域の教会防災ネットワークの担当者が初動体制について具体的に知るといことです。これまで行われてきた国内災害対策フォーラムは、災害支援に携わった方々の証しを聞いたり、加盟団体の防災担当者が自分たちの団体の活動の様子や課題などを分かち合いつつ、ディスカッションする場となっていました。けれども、今回はぜひ教団の防災担当者の方々にも、災害発生時に支援団体がどのように動き、対応するのかをぜひ知っていただきたいということ、また災害発生時において大切なことは、地域の牧師会などを中心としたネットワークであることを認識していただき、教団において積極的に地域の防災ネットワークを構築することをお勧めいただくことを目的としました。

内容といたしましては、国内災害対策フォーラムは、西日本豪雨の被災地におけるベース運営の実際ということで、イムマヌエル総合伝道団呉キリスト教会の内山忠信先生が証しをくださり、その後ハンガーゼロ、クラッシュジャパン、オペレーション・ブレスリング・ジャパンの各団体が証しをしました。午後には、クラッシュジャパン主催の首都圏広域ネットワークの会

合がもたれましたが、今回は首都圏ネットワークにとどまらず、全国ネットワークの担当者の方々が参加してくださり、これまでなかなかお話しを聞く機会がなかったネットワークに関する話しも聞くことができてよかったとの感想も伺っています。日時、内容等は未定ですが、来年も第五回国内災害対策フォーラムを行う予定にしています。各教団の防災担当者の方々の積極的な参加をお待ちしております。

今年は、ハンガーゼロ、クラッシュジャパン、オペレーション・ブレスリング・ジャパンによって災害時の初動パッケージが作成されました。これは、被災地における現地の教会が、予想だにしない状況で、どうしていいのかわからなくなった時にも決してあわてることなく対応し、地域における教会の役割を果たしていくにはどのような準備が必要であるかをまとめたものです。教会や地域ネットワークにおいて、この初動パッケージが広く用いられることを願っています。ぜひご活用いただければと思います。



被災地と支援活動のためにお祈りください！

2019年8月28日（水）に九州北部を記録的な豪雨が襲い、佐賀県武雄市では、山地以外の4割が浸水し、2名が死亡する惨事となりました。

災害発生後の8月31日より、九州キリスト災害支援センターはスタッフの諸藤栄一兄と市来雅伸本部長を佐賀に派遣して、現状把握に努めました。ボランティア派遣かベース開設かの選択肢がせまられる中、サマリタンパース・前スタッフの栗山さんご夫妻に連絡を取り、また3週間の短期限定で拠点を検討し、嬉野キリスト教会牧師の藤野慶一郎先生に相談したところ、拠点となることを快く受け入れてくださいました。さらに、ボランティアベースを開設するにあたって、佐賀のさまざまな教会の先生方が協力を表明してくださり、佐賀ボランティアベセンター開設に至りました。

「教会から教会へ」を支援の理念とする援助協力委員会は、ボランティアベースが教会であり、佐賀県の緒教会からも協力

表明があることを踏まえて、支援に動くことを決断いたしました。ボランティア募集の受け付けも始まっています。3週間という短期の支援活動ですがどうぞお祈りください。（村上正道）

9月8日には台風15号が関東地方を直撃し、千葉県を中心に大きな被害が出ました。JEA 加盟団体でも hi-b.a. キャンプ場をはじめ、いくつか被害が出ています。クラッシュジャパンは、他の支援団体と協力しながらボランティア活動を行っています。被災された地域と教会を覚えてお祈りくださいますよう、お願いいたします。また昨年の西日本豪雨の被災地でも、岡山キリスト災害支援室が中心となり「まびくら」で支援活動が継続されています。毎年、大きな災害が日本で起こっています。教会が被災地域にキリストの愛と希望をもたらす存在となるように、JEA では教会ネットワークの構築と支援のインフラ作りに協力しています。引き続きお祈りとご協力をお願いいたします。（岩上敬人）

牧師の本棚

『十字架と桜 キリスト教と日本の接点に生きる』

青木義紀 神学委員
日本同盟基督教団
和泉福音教会

(丸山忠孝著、いのちのことば社、2019年)

「キリスト教」と「日本」の象徴をタイトルに掲げた本書は、著者が長年神学教育に携わる中で深めてきた思索を遺憾なく発揮し、折々になされた講演の記録です。全体は十の論考からなり、そこで扱われるテーマは、いわゆるキリスト教の歴史観や教理に関するものから日本人論や宗教性に関わるものまで多岐に渡ります。しかしその全体を一つにまとめ上げるのは、日本の歴史・思想・宗教の脈絡においてキリスト教を捉えるという著者の姿勢であり、それでこそキリスト教のあり方と方向性を見出すことができるという著者の期待にあります。そこには、日本を中心に据えてキリスト教を捉える「日本とキリスト教」ではなく、キリスト教を主体として日本を見つめる「キリスト教と日本」という著者の長年の確信があります(同著者『日本人キリスト者からキリスト者日本人へ』[いのちのことば社、1997年]参照)。

筆者はかつて、同著者による研究書『カルヴァンの宗教改革教会論—教理史研究』(教文館、2015年)を評して、「新進気鋭の若手研究者のような果敢さと、熟練した大家の重厚さと堅実さを兼ね備えた研究」と表現したことがあります。この表現は本書にもあてはまり、専門である宗教改革史やキリスト教歴史観だけでなく、著者自身「門外漢」と呼ぶ専門外の分野においても「果敢さ」と「堅実さ」が共存しています。それでいて

その筆致は謙虚で慎ましく、選び抜かれた言葉と洗練された表現によって一文一文に濃密な内容が凝縮されています。何気なく書かれた各文の中に、学問的な議論や歴史的な背景が透かして見え、著者の学識の広さと思索の深さが窺えます。平易な文章は初学者にも読みやすく、さらりと読み流しても私たちに十分な学識を提供してくれますが、立ち止まりつつじっくり読み進めると実に深い思索へと私たちをいざなってくれます。

ここで扱われているテーマはみな、日頃、この地で福音宣教に生きるすべての働き人にとって、避けて通ることのできないものばかりです。本来なら、各自がじっくりと机に向かって文献を読みあさり、思索を深めて考え抜かなくてはならない課題ですが、宣教の第一線に立っている者にはその時間と労力が捻出できないのが現実です。そのジレンマを解消する一助となるのが本書です。これを読まずに「キリスト教」の理解も、「日本(人)」の理解も覚束ないと言っても決して過言ではありません。



「天皇代替わりに際しての声明」を出しました

上中栄 社会委員長
日本ホーリネス教団・旗の台教会

天皇の代替わりに備えて、日本福音同盟(JEA)社会委員会が行っていることを報告いたします。

1. 「天皇代替わりに際しての声明」

これは当初、JEAの総会声明としての議決を目指して作成しましたが、審議時間の関係で総会議案とはせず、委員会声明として発表することにしました。理事会の提案で、総会の議場に文案を配り意見を募りましたが、声明発表の手順に則り、委員会で作成した原案をそのまま委員会声明として公表しました。総会時に寄せられたご意見は、今後の声明作成の参考にさせていただきます。

声明の概要は、天皇代替わりの諸儀式には宗教的要素が含まれているにもかかわらず、公的要素が強いという理由で国事行為として行われることは、憲法の政教分離原則違反を既成事実化するという懸念を表明すると共に、戦時下の過ちを悔い改めた教会として、聖書信仰に立ち、イエス・キリストが主であることを告白する、というものです。

総会でも、政治的な意見の表明には慎重であるべきという意見がありましたが、基本的にJEAが発する声明は、政治的な主張ではなく信仰表明です。それが、政治や日本社会の動向とどのように関係するかは、慎重な検討と対話が不可欠です。委員会では、そのための機会やツールを用意していますので、これから積極的な対話がなされることを期待しています。

2. JEA 総会講演会

また委員会では、今年6月に行われた第34回JEA総会時に二日目の講演会を担当しました。講師に青山学院大学の森島豊氏を招き、「天皇代替わりとキリスト教会」というタイトルで講演していただきました。天皇代替わりそのものというよりは、森島氏の専門である思想史の視点から、キ



総会で講演する森島豊氏

流れのほとり

No.25

宗形友子 女性委員
流山福音自由教会

恵みに満ちたリトリート

6月24日から26日、菅家容子先生を講師にお迎えして、第13回心のオアシスリトリートを行いました。今回は初の試みとして開催地を関西、自然あふれる神戸市郊外の「しあわせの村」とし、部分参加ができるようにしました。



「宣教の使命を担って～置かれたところで生き生きと」というテーマで、菅家先生がルツ記から4回に渡ってお話をしてくださいました。優しい語り口で語られ

たその講演は、キリスト者として生きる私たち女性にみことばが寄り添い、励ましや気づきを与えてくださるものであることを鮮やかに示すものでした。

講演の後に、毎回、主からどのような問いかけを受けたかをテーブルミーティング形式で分かち合いました。初めは多少の緊張と戸惑いがありましたが、同じメンバーでの分かち合いは回を重ねるごとに深みを増し、親しいものとなりました。2日目には6つの分科会に分かれて恵みをいただきました。また楽しいピアノコンサートで心をほぐすことができました。

参加者一人ひとりがあふれるばかりの恵みと、チャレンジを受けて家路に着きました。

主講師・分科会講師の先生方のご協力により、JEA ホームページ（女性委員会）にて、それぞれの原稿を閲覧することができ

ます。ぜひお読みくださって、共に祝福を受けていただきたいと思います。



「第13回心のオアシスリトリート」準備委員と講師陣

※女性委員会の働きは献金によって支えられています。志のある方はJEAの口座に「女性委員会」と指定してお届け下さい。

ようこそ「かたりば」へ～集まれ！女性たち～

野寺恵美 女性委員長 / 日本同盟基督教団・赤羽教会

それぞれ持ち場は違っても、主からビジョンをいただいて今まさに働いている女性、これから始めたい女性、後ろで支えたい女性…、みな集まって語り合しましょう！共に学び、分かち合い、祈り、つながりましょう！毎回、ゲストを迎えてお話を伺い、参加者同士の意見交換、祈りの時をもちます。

第1回「かたりば」

日時：10/24（木）14：00～15：30

場所：OCC 5階 JEA 事務所（501号室）

ゲスト：「心のケアミニストリー タリタ・クム」代表

岩上真歩子先生

JEA 社会委員会

リスト教人権思想の日本社会への影響について、また日本社会でキリスト教が広まらないメカニズムなどについて語られました。こうしたタイトルの講演にありがちな厳つい（！）話ではなく、ユーモラスな講演だったこともあり、天皇代替わりについて考えるきっかけとしてよい機会だったのではないかと思います。

講演内容については、まったく同じものではありませんが、昨年の信教の自由セミナーの報告書に、森島氏の文書を掲載する予定です。

3. その他

昨年発行した「その時に備えて part2 天皇代替わり Q&A」が、JEA 内外でよく用いられ、品切れとなりました。そのため、今年の5月に改訂2版を発行しました。本文は初版と同じですが、天皇代替わりが行われたことを受けて、まえがきなどを

修正しました。「その時に備えて part1 憲法問題 Q&A」も増刷しましたので、合わせてご利用いただければと思います。

また12月13日（金）、駒込のアッセンブリー中央聖書神学校を会場に、今年も「信教の自由セミナー」を開催いたします。メインの講師に前述の森島豊氏をお招きすると共に、いくつかの神学校の神学生によるシンポジウムを予定しています。追って案内をお送りしたいと思います。



その時に備えて Part 1

「憲法問題 Q&A」

その時に備えて Part 2

「天皇の代替わり Q&A」

（1部200円）

好評発売中です！

注文は JEA 総務局まで

JEA アップデート



ブジヤントご夫妻と（JEMA 事務所にて）

アジア福音同盟総主事・ブジヤントご夫妻が JEA 事務所訪問

2019 年 5 月 21 日、アジア福音同盟 (AEA) 総主事のブジヤント先生ご夫妻が JEA 事務所を訪問され、植木英次・AEA 議長、岩上敬人総主事と会合をもちました。11 月の世界福音同盟 (WEA) 総会に向けた準備、AEA 専門委員会への JEA の参加及び協力についての要請を受けました。アジア福音同盟は植木師が議長を務め、JEA と深いつながりがあります。今後もよい協力関係が続けられるようお祈りください。



ドイツ福音同盟ミハエル・エッゲルト氏が JEA 事務所訪問

9 月 3 日にドイツ福音同盟のミハエル・エッゲルト氏が来日され、JEA 事務所を訪問してくださいました。普段あまり情報が入ってこないドイツを始め、ヨーロッパの福音派の動きを教えてくださいました。ドイツではルター派が主流を占めていますが、福音派も互いに協力して宣教活動を行っているそうです。日本の宣教の現状やアジアや世界の福音派の動向も情報共有しました。たいへん有意義な交わりの時となりました。



左より2人目がデビッド・ロー氏

国際ローザンヌ東アジア担当ディレクター・デビット・ロー氏訪問

9 月 13 日にデビッド・ロー氏（ローザンヌ東アジア担当）がご夫妻で来日されました。来年 11 月にアジア・ローザンヌ、AEA、アジア神学協議会 (ATA) の共催でアジア 2020 大会が開催されるそうです。ロー氏は同大会運営委員等として参加協力のアピールに来られました。日本ローザンヌ委員会から倉沢師、立石姉、AEA から植木師、JEA から総主事が顔合わせに参加しました（ウェブ参加：廣瀬理事長、ATA・正木師）。今後の協力について話し合いをしました。



第 34 回 JEA 総会が開催されました

6 月 3～5 日、つま恋リゾート彩の郷にて第 34 回総会が開催されました。今年の大きな決議は、加盟会員の基本負担金の増額でした。日本、アジア、世界に広がっていく宣教協力の働きにตอบสนองするために、会員の皆さまの意見とお祈りをいただきながら話し合いを進めました。この度の総会で会員の皆さまのご理解をいただき、基本負担金の増額を議決し、それに伴う規約細則を改定しました。



宣教委員会リトリート

宣教委員会では年に 2 度、宣教研究部門、宣教フォーラム部門、異文化宣教ネットワーク部門が集まってリトリートを行っています。今年も JEA 総会後にリトリートを行いました。JEA 専門委員会の中でも直接的な宣教の働きを担っています。次の日本伝道会議に向けてロードマップを作成し、プロジェクトをはじめとする多くの準備を進めています。委員のためにお祈りください。

JEA 総務局から

- ◆ JEA では 4 月より新総主事の下で新しい事務所運営が始まりました。総主事は基本的に週 5 日 10:00～17:00 事務所に出勤しています。お茶の水クリスチャンセンターにお越しの際にはぜひ、JEA 事務所（501 号室）にお立ち寄りください。
- ◆ 小野寺従道総務局長を中心に事務所のスペースを有効に使うために模様替えを行っています。特に会議スペースが広くなり、新しい OA 機器も導入してオンライン会議にも対応できるようになりました。
- ◆ 消費税増税に伴い、コスト削減のため、10 月より郵便振替業務をオンライン化することになりました。



日本福音同盟

心をつなげて福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

JEA ニュース 54 号 発行・日本福音同盟 (JEA)
発行者：廣瀬薫 編集者：岩上敬人
〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内
TEL : 03-3295-1765 FAX : 03-3295-1933
email : admin@jeanet.org
郵便振替 : 00150-8-68442 (口座名義 : JEA)